

企業の品質経営度調査 参加ガイド

品質経営の現在地を可視化し、次の一歩へ

2026年2月
一般財団法人 日本科学技術連盟 (JUSE)

1 企業の品質経営度調査とは

調査開始から現在まで

2 本調査の目的・メリット

品質経営推進の意義と参加の利点

3 品質経営度の6つの側面

6つの経営側面が存在する構造を想定

4 調査概要

調査期間・対象・公表媒体

5 申込手順

申込みから提出までのステップ

6 回答企業からの声①

業種・部門別「本調査の有用性」

7 回答企業からの声②

業種・部門別「品質経営の有用性」

8 過去のランキング：

直近5回の上位評価企業
(第8回(2014年)～第12回(2024年))

9 フィードバックレポート

回答企業への個別フィードバック

10 お問い合わせ

本調査連絡先、詳細情報掲載サイト

- ・ 企業における品質経営の推進のみならず、産業界に対して「品質」の重要性の再認識をうながすことなどを目的に、2004年から日科技連と日経新聞社が共同で始めた調査です。
- ・ 主に製造業を対象に、TQM・品質経営の取り組みに関する質問票に回答いただき、日本における品質経営の実態を調査します。
- ・ 企業の品質経営の実践度を測定し、格付け星0～5（11段階）で評価する2年周期の全国調査です。
- ・ 主に製造業・建設業・情報システム／サービス業を対象とし、結果は公表・共有されます。
- ・ 過去12回実施しており、各社の品質経営推進のレベル把握、品質への取り組みの指標、方策に活用いただいております。

- 2026年度に第13回目を実施する予定で、調査結果は、格付け形式にて2026年11月に公表する予定です。
- 本調査の評価方式は、従来相対評価（偏差値ベース）でしたが、今回から、絶対評価（固定基準ベース）に移行すべく検討中です。
- 本調査は、Advanced版調査票とサプライチェーンを構成する中小企業やグループ関連会社など多くの企業が参加し、回答しやすいBasic版調査票の2種類で調査を実施します。
- 2027年2月には、今回の調査を踏まえた報告講演会を、より多くの皆様にご参加いただけるように「クオリティフォーラム2026」のセッションの1つとして開催を計画しております。

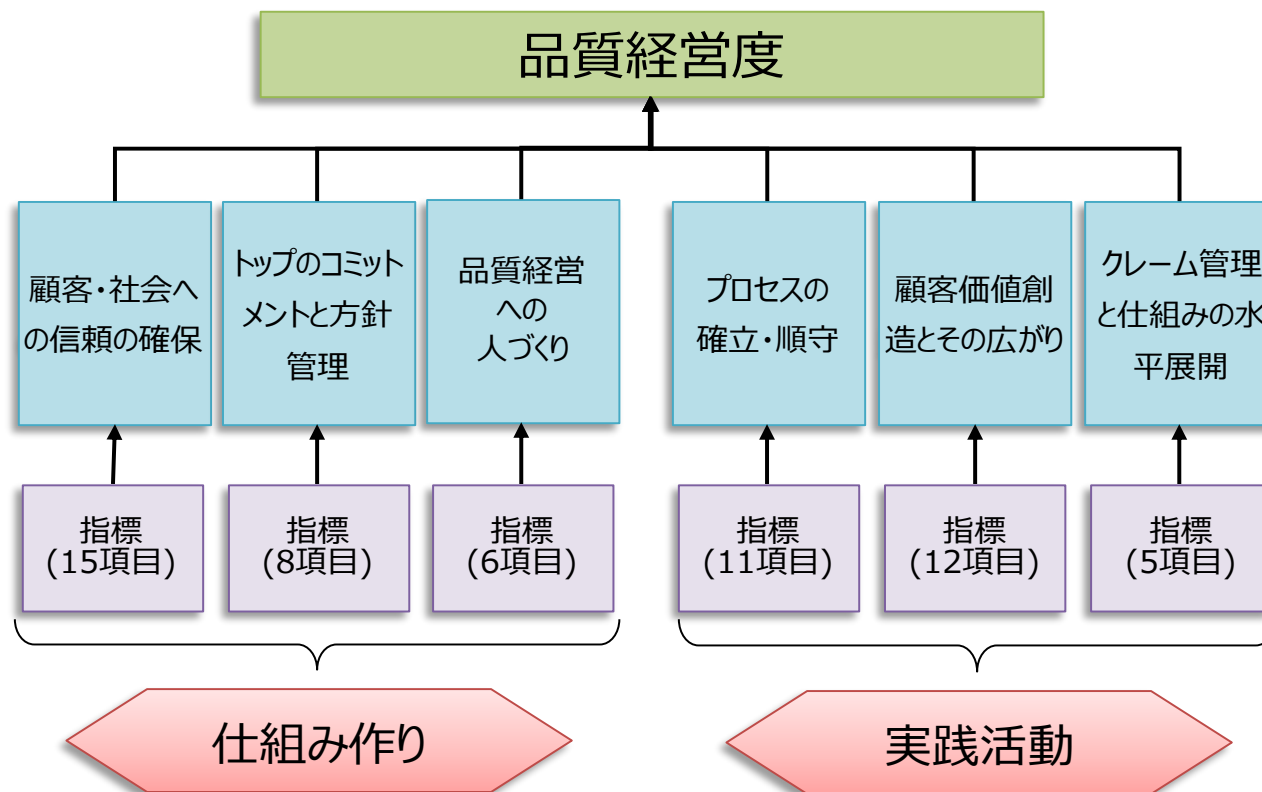
実施の目的

- ① 企業で続発する品質トラブル、不祥事への警鐘を鳴らし、品質経営にしっかり取り組んでもらうよう働きかけること
- ② 調査内容を企業の品質経営のセルフチェックに役立ててもらい、品質管理の推進に役立ててもらうこと
- ③ 調査の結果は、新聞に公表して、社会の関心を高めさらに多くの企業に品質の重要性を認識してもらうこと

参加のメリット

- ① 客観的ベンチマーク
企自社の品質経営度を第三者視点で把握し、業界内での位置を確認できます
- ② 改善の焦点化
企指標別スコアにより、強み・弱みが明確になり、改善活動の優先順位付けに役立ちます
- ③ 社内に動機づけ
企評価・格付けの可視化が、現場から経営層まで全体の意識を喚起します

品質経営度調査は、下記概要図のように、「品質経営度」が頂点に位置し、その下位概念として6つの経営側面が存在する構造を想定しています



第12回調査(2024)より

| | |
|--------------|--|
| 調査期間 | Advanced版（従来版）2026年6月 3日～8月 5日（予定） Basic版（中小企業版）2026年6月12日～7月14日（一次締切） 8月 5日（二次締切） |
| 調査対象 | 日本国内の製造、情報システム、建設企業など |
| 公表時期 | 2026年11月初旬ごろ予定 |
| 公表媒体 | Advanced版（従来版）日本経済新聞、電子版 Basic版（中小企業版）本ウェブサイト |
| 主催 | 一般財団法人日本科学技術連盟 |
| 後援 | 日本経済新聞社、日本商工会議所、東京商工会議所 |
| 調査・解析 | 株式会社日経リサーチ |

※回収した調査票は、日経、日経リサーチ、日科技連、大学関係者からなる集計担当者のみが閲覧・集計し、統計処理により全体傾向と回答企業の位置づけなどを割り出します。なお、集計担当者は調査内容について守秘義務を負っております。

※個別企業情報は外部には一切公表いたしません。ただし、回答企業ご自身には、その企業の位置づけ等の情報をフィードバックさせていただく予定です。

※解析結果により、注目される企業については取材ならびにヒアリングをさせていただきます。

申込から提出まで、5つのステップで完了します

| | |
|------|---|
| ①申込み | 専用ページ下部の「同意して申し込む」ボタンをクリックしてください |
| ②登録 | 貴法人および回答者の連絡先を入力・確認の上、「送信」ボタンをクリックしてください |
| ③受領 | 担当者様宛にID・パスワードとダウンロードサイトのURLが記載された案内メールが届きます |
| ④入手 | ウェブサイトダウンロードサイトへアクセスし、電子調査票(Excel形式)をダウンロードしてください |
| ⑤提出 | 調査票に回答後、同サイトから調査票をアップロードします |

☆Advanced版

原則として各企業の広報あるいは品質担当部門、日科技連賛助会員企業の教育担当者などに約750社に日経リサーチより調査依頼書を郵送します

☆Basic版

本調査Webサイトからダウンロード / ~受付開始
<https://www.juse.or.jp/jqr/questionnaire/>

☆ 詳細な設問や解説、回答にあたっての留意点については、ダウンロードした電子調査票内の記載をご参照ください

報告講演会資料・過去のレポートより「本調査の有用性」

製造業 品質保証部

客観的なスコアリングにより、経営層へのリソース投入の説得力が格段に増しました。

建設業 経営企画部

他社との比較で、DX推進の遅れが明確になり、重点投資先を決定できました。

精密機器・品質管理部

社格付けの維持・向上が、現場のモチベーション維持に繋がっています。

化学 サステナビリティ部

ESG投資の観点からも、品質経営の透明性が評価される指標として活用しています。

食品 CS推進部

顧客満足度と品質経営の相関を確認でき、サービスの質向上への自信に繋がりました。

自動車部品 役員

自社の弱点を『経営課題』として再定義する良いきっかけになりました。

電機メーカー 監査部

ガバナンス強化の観点から、品質不正を未然に防ぐ体制評価に活用しています。

電機機器 品質本部

デザイン思考を取り入れた品質経営と教育体制強化、ナレッジマネジメントにより、従来の「マイナスをゼロにする」品質保証から「ゼロをプラスへ」変える発想転換を全社で推進しています。

化学 品質保証部

「自工程完結」の考えのもとに、問題を「再発させない仕組みづくり」を徹底。主要顧客からの品質賞多数受賞や、創設以来市場クレームゼロの実績は強力な励みになっています。

半導体・電子部品 品質本部

社員の品質意識調査とQC検定取得を軸に意識醸成を図っています。未然防止のためのナレッジ共有基盤を構築し、システムが現場で有効に機能しています。

食品・飲料 品質保証部門

過去の事例を教訓とした「事故品ゼロ」活動をDNA化。「問題を隠さず学ぶ文化」へと転換し、その意識を全社・グループ全体に深く浸透させています。

電気機器 品質統括センター

失敗コストを徹底的に管理・分析し、その結果を具体的な行動へとつなげる仕組みを構築することで、組織全体の意識改革を加速させています。

医療・歯科材料 全社品質経営

価値観の共有と「人づくり」を柱に捉え、企業風土の改革と品質経営の仕組み整備を同時並行で推進。グローバルな人材育成にも注力しています。

電気機器 全社品質

経営陣と現場社員との対話を重視し、取引先も巻き込んだ品質研修を展開。問題をオープンにする文化と活発な議論が、組織力を高めています。

過去のランキング

直近5回（第8回（2014年）～第12回（2024年））の上位評価企業一覧

本第8回（2014年）

| 順位 | 企業名 |
|----|----------|
| 1 | コニカミノルタ |
| 2 | ジーシー |
| 3 | 富士通 |
| 4 | 富士フィルムHD |
| 5 | シャープ |

本第9回（2016年）

| 順位 | 企業名 |
|----|---------|
| 1 | ジーシー |
| 2 | コニカミノルタ |
| 3 | 竹中工務店 |
| 4 | キヤノン |
| 5 | サントリーHD |

本第10回（2018年）

| 順位 | 企業名 |
|----|---------|
| 1 | コニカミノルタ |
| 2 | ジーシー |
| 3 | キヤノン |
| 4 | 竹中工務店 |
| 5 | ローム |

本第11回（2022年）

格付け5獲得企業名（順不同）

| | |
|-------|---------|
| ☆☆☆☆☆ | リコー |
| ☆☆☆☆☆ | サントリーHD |
| ☆☆☆☆☆ | ジーシー |
| ☆☆☆☆☆ | ケアコム |

本第12回（2024年）

格付け5獲得企業名（順不同）

| | |
|-------|-------|
| ☆☆☆☆☆ | キャタラー |
| ☆☆☆☆☆ | ケアコム |
| ☆☆☆☆☆ | 竹中工務店 |

☆第11回より、「格付け制（5つ星評価）」に変更されました

<https://www.juse.or.jp/jqr/ranking/>

フィードバックレポート

advance版・basic版の回答企業へ個別レポートをフィードバック

CODE : _____ 貴社名 : _____

「企業の品質経営度」調査 個別レポート

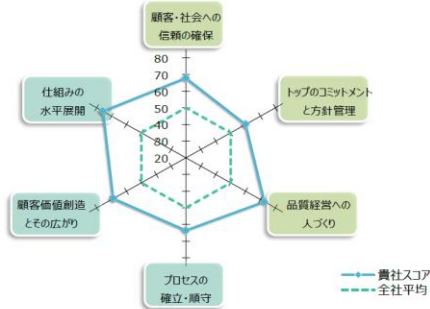
◆貴社のスコアと順位

| | 総合得点 | 総合偏差値 (格付け用) | 総合格付け |
|-------|-------|-----------------|--------|
| 貴社スコア | 408.8 | 71.8 | ★★★★★★ |

| | 仕組み作り | | | 実践活動 | | |
|-------|------------------|----------------------|----------------|----------------|------------------|--------------|
| | 顧客・社会への 信頼の確保 | トップのコミットメント と方針管理 | 品質経営への 人づくり | プロセスの 確立・順守 | 顧客価値創造 とその広がり | 仕組みの 水平展開 |
| 貴社スコア | 67.8 | 60.1 | 72.7 | 63.6 | 68.9 | 75.7 |
| 平均点 | 50.0 | 50.0 | 50.0 | 50.0 | 50.0 | 50.0 |

*今回より格付け方式に変更となったため、**貴社順位は公開していません**のでご了承ください。
*得点につきましては、当調査は各側面の名称や中身が毎回変更となり、前回との比較はできないため表示していません。

◆貴社の側面ごとの得点 (レーダーチャート)



◆より詳細な分析について

6側面を構成する52変数の水準など詳細な分析は、「品質経営度調査ベンチマーク支援サービス」にて提供予定です。
提供開始は**2023年1月下旬以降**を予定しております。予約受付開始のタイミングでご案内しますので、今しばらくお待ちください。

■本解説資料に関するお問い合わせは下記までお願いします ■
(株) 日経リサーチ コンテンツ事業本部 編集企画部 堀江
nkr-jqr@nikkei-r.co.jp

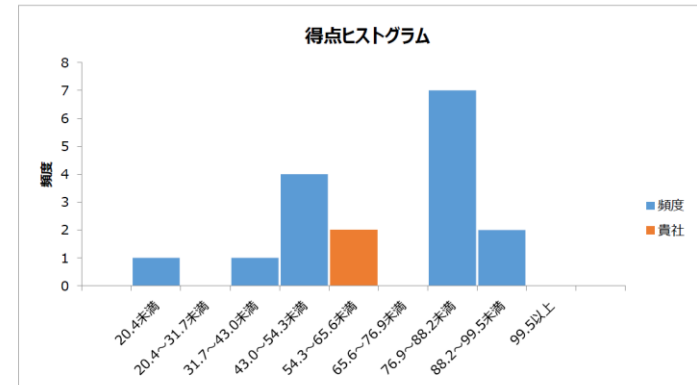
「企業の品質経営度」調査 Basic版個別レポート

◆貴社のスコアと順位

| | 得点 | 総合格付け |
|-------|------|-------|
| 貴社スコア | 58.2 | ★★★ |

*格付け方式のため、**貴社順位は公開していません**のでご了承ください。

◆貴社のポジショニング



◆格付けについて

ご回答頂いた各設問に対して企画委員会委員長・副委員長の計4名にて採点を行い、該当しない設問を配慮した上で得点を算出し、格付けを決定した。

| 得点の区間 | 格付け★ |
|-------------|------|
| 20.4~31.7未満 | 1 |
| 31.7~43.0未満 | 1.5 |
| 43.0~54.3未満 | 2 |
| 54.3~65.6未満 | 2.5 |
| 65.6~ | 3 |

■お問い合わせは下記までお願いします ■
(株) 日経リサーチ コンテンツ事業本部 編集企画部 堀江
nkr-jqr@nikkei-r.co.jp

貴社の参加をお待ちしております

企業の品質経営度調査に関するお問い合わせは、下記へお願いいたします。

一般財団法人 日本科学技術連盟 品質経営創造センター

〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビルディング4F

TEL : 03-5990-5846 (平日9:00-17:00)

E-mail : juse-jqr@juse.or.jp

詳細情報:

| | |
|-------------|---|
| 本調査公式webサイト | https://www.juse.or.jp/jqr/ |
| 調査票詳細サイト | https://www.juse.or.jp/jqr/questionnaire/ |
| 過去の分析結果 | https://www.juse.or.jp/jqr/ranking/ |